



2014.9.1

9月ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

現代の子どもたちは、様々なところで比較され、評価され、順位をつけられる中で成長していきます。ここでは、その行為そのものではなく、それをこなしてより高い評価を受けることが、子どもたちにとってまた親にとっても、目的や喜びになっているという状況が多くあります。そして、このような評価は単に勉強に留まることなく、様々な子どもたちの日々の生活の場面においてもなされています。本来は子どもたちの遊びであった川や海での水遊びが、プールでの水泳教室となり、広場での異年齢の子どもたちの野球やサッカーといった遊びが、大人の指導者の下でのスポーツ少年団等の練習となっています。そこでは、明確な目標が掲げられ、効果的な上達方法による指導を受けることとなります。そしてその中では、その活動そのものを楽しむ、そこでの仲間同士の関わりを楽しむのではなく、指導者の示した目標に対してどれだけ近づけたかが評価の視点となり、基準をクリアすればより高い評価と認証を受けることとなります。

「下手の横好き」という言葉がありますが、下手でも楽しんで出来る活動(遊び・趣味)を持てることは人生を豊かにするはずなのですが、子どもの頃からいくら楽しんでいたとしても、「もっと練習して上達しなければ」等と言われ、下手では評価されずにいたとすれば、その行為そのものを楽しめなくなりますし、また外からの評価ばかりが気になってしまう人間となっても無理はないようにも思います。本来の遊びとは、誰かに評価されるものではなく、自分自身で納得して満足すれば良いものであり、だからこそ自由に楽しいものであるはず。

また、親もわが子に対して様々な課題を与え、その結果によって様々な褒美やある時には罰則を与えているかも知れません。これは条件付の愛情とも言えるもので、その結果次第で親の態度が変わることに対して子どもたちは様々な不安を持つこととなります。「だめじゃない、そんなことでどうするの」「やっぱりお母さんの言った通りだったでしょう」、そんな言葉を親はあまり意識することなく子どもにかけているかも知れませんが、そんな時の子どもの気持ちはどんな気持ちでしょうか。そしてこれとは反対に、子どもにとって一番心強く、安心できる親の言葉は、「大丈夫」という言葉だろうと思います。「大丈夫」という言葉は、「失敗しても大丈夫」という表現があるように、明確な評価基準があるわけではなく、何があっても見捨てられない、どんな時でも愛していてくれる、信頼していてくれるといった安心を与えてくれる言葉なのです。

もうすぐ幼稚園でも運動会が行われますが、この運動会も大人が指示し、何度も練習を繰り返し、子どもにとっては、大人の目を意識して行うものではなく、自ら「がんばろう」「みんなでするのが楽しい」「家族が見に来てくれてうれしい」といった気持ちで迎えるものでありたいと思います。

子どもを常に不安な気持ちにさせるのも、またどんな状況であっても自分は信頼されている、愛されていると安心することが出来るのも、この親や大人からの、子どもへの言葉と態度であることを忘れないでいたいと思います。

9月主題 「いっしょに」

聖句 “サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております。」”

(サムエル記上3章10節)